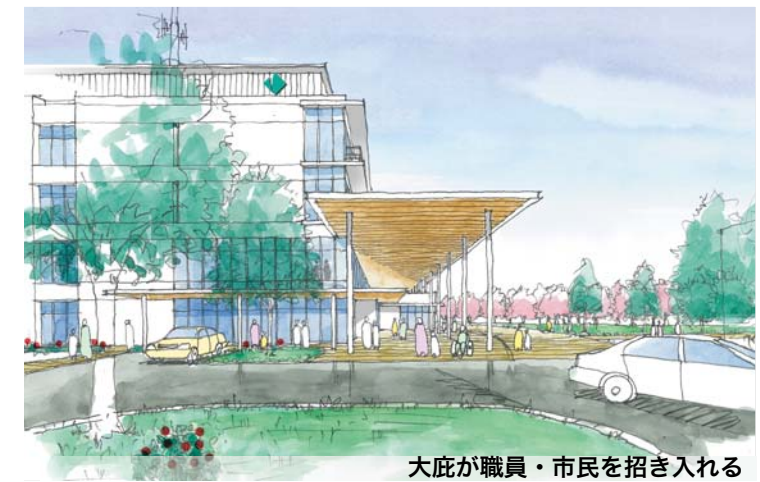




さくらひろばからのアプローチ



駐車場エリアより庁舎東面を見る



大庇が職員・市民を招き入れる

八千代市の現状の課題、将来を見据えた庁舎のあり方

現庁舎の課題・背景

1. 市の財政状況を踏まえた規模の見直し
 - 現状の面積を増やさず機能は高度化
2. 現庁舎が抱える諸課題の解決
 - 耐震性と防災拠点機能の不足
 - 老朽化と保全費用の増大
 - 狭隘化と分散化による利便性の不足
 - ユニバーサルデザイン、プライバシー、セキュリティーの不足
3. 新型コロナウイルス感染症による状況の変化
 - 感染症対策の社会的要請
 - リモートワーク等、新たな働き方の浸透
4. あらたな社会要請
 - 自然災害の甚大化（地震・台風）
 - 脱炭素社会の推進/八千代市「ゼロカーボンシティ」宣言
 - 行政手続きオンライン化に向けたプラットフォーム整備
5. 敷地のポテンシャル・課題
 - 駅から庁舎までのアプローチは緑道（ハミングロード）が整備され、緑豊かなアプローチ。
 - 成田街道の歴史軸、保健センター、市民会館との主要生活動線のつながり。
 - 広域では豊かな広場が点在。市役所周辺には、まとまった広場が不足。



5つの基本理念を実現する基本的な考え方

基本計画の5つの基本理念を12,100㎡で実現

- I 市民の安心・安全を支える庁舎
- II 市民サービスの向上を目指した庁舎
- III 市民に開かれた庁舎
- IV 人や環境に優しい庁舎
- V 効率的・機能的で経済性に優れた庁舎

新たな庁舎実現の考え方

- 庁舎建設を延期した結果、時代の変化に対応した庁舎へと見直すことが可能になりました。この機会を最大限に生かすことが期待されていると考えます。
- 庁舎の規模見直しは「新たな働き方」「ICT活用」という変化で可能になります。「働き方改革」で蓄積された知見を活かし、面積の圧縮と市民サービスの充実を両立します。
- シンプルであることが市民の誇りになる庁舎を目指します。コンパクトだからこそ市民にとってわかりやすい、職員の連携もしやすい。規模縮減によって、市民が憩える緑豊かな広場もつくるのが可能です。
- 自然災害も従来の想定を上回る規模が頻発しています。地震、台風、未知の感染症など、新たな課題が登場し行政への期待は大きくなっています。どんな時も防災拠点機能を継続し、被災者支援に柔軟に対応できることが重要です。
- 持続可能な社会の実現に向けて、多くの市民からZEBの取り組みが期待されており、八千代市「ゼロカーボンシティ」を推進するZEB庁舎を実現します。
- 時代の変化に対応する上で重要なのが、段階的取り組みです。今後も変化は続いていくでしょう。正解がない時代だからこそ、皆さんと一緒に次の時代を創っていくことが重要だと考えます。

設計コンセプト

ともに育てる庁舎

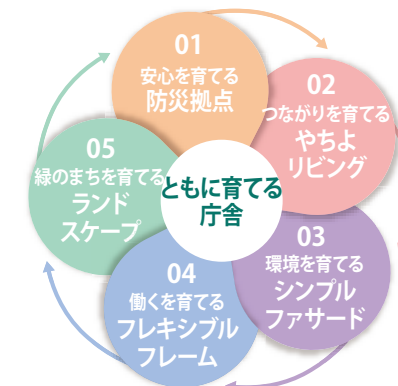


図 1-2 ともに育てる庁舎を実現する5つのキーワード

庁舎づくりはまちづくり。
5つの基本理念の実現に向けて、市民と職員で段階的に取り組める「ともに育てる庁舎」を提案します。
八千代市の歴史や基本計画を踏まえて見出した、5つのキーワード（安心/つながり/環境/働く/緑のまち）をもとに、皆様の想い一つにする庁舎をつくりたい。

01 安心を育てる防災拠点

● 日常は行政サービスを通じて安心を育み、災害時は防災拠点となる免震庁舎・ひろば

02 つながりを育てるやちよリビング

● さくらひろばに面して市民と行政、市民同士をつなぐ「やちよリビング」を設置

03 環境を育てるZEB庁舎

● 東西南北の開き方を最適化した高い外皮性能を確保。竣工後も段階的に省エネ化を推進

04 働くを育てるフレキシブルフレーム

● 整形な建物形状で、フレキシビリティを最大化
● 「ICT」を活かし、「新たな働き方」「新たな市民サービス」に対応できる庁舎

05 緑のまちを育てるランドスケープ

● 庁舎周辺のみどりをつなぎ、市民が豊かな自然を感じながら歩けるランドスケープを整備。
● 成田街道の歴史や花等、八千代の景観を育む。